大正八年九月十五日發行（毎月一回發行）

婦人新報

九月號

第貳百六拾六號目次

□英文　ブラックモーア
□編輯室より　エー、エム
□美しい家族　安中花子
□初旅の憶ひで　宮川靜枝
□山のおもひで　花子
□フランシス・ウヰラード　大橋房子
□ロンドンの夏　海老名みや子
□島原天草の視察　N・O・K
□家を持たんとする若き人々に　淺田みか子
□基督教婦人矯風會の過去將來　久布白落實
□八十七歳の夏休み　矢島楫

基督教婦人矯風會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

産婦人科
小児科
女醫 吉岡彌生

△院長診療 宅診午前 往診午後
△醫員診察 午後

産室及病室の設けあり隨時入院の需めに應ず

東京市麹町區飯田町
四丁目三十一番地
東京至誠病院
電話番町二二五七番

社告

□婦人新報定價（郵税共）
一年分（前金）金壹圓也
半年分（前金）金五拾錢也
一ヶ月分（郵券代用一割増）金九錢也

□廣告料
一行（五號活字）金參拾錢也
一頁 金五圓也
半頁 金參圓也
四分ノ一頁 金貳圓也

振替口座東京三二四六九
編輯及事務所 婦人矯風會本部

大正八年九月九日印刷
大正八年九月十五日發行
發行兼印刷人 矢島楫
編輯人 藤井孝
發行所 婦人新報社
東京赤坂區新町三丁目四十六番地 婦人矯風會事務所
印刷所 東京京橋區銀座四丁目 福音印刷株式會社

No. 266 September, 1919.

WOMAN'S HERALD.

CONTENTS.

1. My Eighty Seventh Summer Vacation .... Madam K. Yajima.
2. The Prospect and the Reprospect of the W.C.T.U. ...... Mrs. N. O. Kubushiro
3. To the Young People who are about to make Home .... Mrs. M. Asada
4. The Investigation of Shimabara N. O. K.
5. From the City of London ...... Mrs. M. Ebina
6. I Hear the Groans of Darkness Miss S. Miyagawa
7. Life of Miss Willard—Part II. Miss F. Ohashi
8. A Charming Family .... Miss H. Annaka.
9. From the Editor's Room. ...... A. M.
10. Reports ....
11. English .... Miss Blackmore

FUJIN SHIMPO OFFICE.
No. 46, Sanchome, Shinmachi, Akasaka,
Tokyo, Japan.

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

八十七歳の夏休み

會頭　矢島楫

愉快な動議

此夏は久し振りに東京で暮しました。實は何地か適當な處があれば、行つてもいゝと思つてさがしても見ました、然し私の希望する三つの條件即ち、比較的涼しい高燥な地、物價の廉い處、健康地、といふ場所が見當らずにしまひました。扨避暑地を他に求めず本部で暮すとなれば、種々な思出や希望も湧いて參ります。抑も此會が三十年前に創立されて初めての大會を開き一日會食の席上で私は一場の演説を致しました。內容は兎も角も婦人の團體であつても斯く組織が成るからには、其家といふものを定むることが必要である、私は其家を持つものにならなければと決意をした、と、云ふやうな條でした。會食したものゝ數は漸く廿餘名でしたが、其意氣はなかなか盛んなもので、串田しげ子（今の東ケ崎夫人）姉は起つて私の演説に對して實に愉快に一つの動議を出して皆の賛成を得ました、「此食後此處で募金をして見て事實を見ませう、」と云ふことにした、串田しげ子姉と小崎千代子姉は食卓の兩端から起つて、募金の豫約帳を人々の前に出しました、北海道の田村さんの五十圓を筆頭に各々心から書きました、貳百何十圓といふものが出來ました、一同は手を打つて喜びました。此當時は三千圓あれば會館が建築つといふ時でしたから、其後潮田千勢子、串田こう子の兩姉が改めて募金委員となつて熱心に集められましたので、八百圓餘の金額に達しましたが、或る事情の爲に一時募金は中止になつてしまひました。

嬉しからざるを喜ぶ

暑い夏の日靜かに一人廣い二階の室で椅子により、三王臺から吹いて來る風に休んで居ますと、是等の事

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

があだかも昨日今日の出來事のやうに追憶されましたそして畫卷物のやうに私の心に影つて來ます、一時中止された募金も心に掛けた人々の手に靜かに絕えず集められ困難な度々の事情も打ち開き〳〵、煉れに〳〵て生れ出たのが此本部會館です、私は此本部に深い敬意を捧げてゐます、然るに家が出來れば次に維持の方法にまた苦心をつゞけなければなりません。昔を想ひ今を思ひ一層今年は意味深い此本部で暮す方がいゝと思ひました、扨本部で此夏を過すとすれば如何いふ風に暮そうかと考へました。日頃住む家ながら避暑した心持ちにもなりたし、新たらしい試みもして見たし、と思ひ廻らして居ました時、心に浮た一句がありました、「貧しきを憂へずして安からざるを憂ふ、尠なきを憂へずして等しからざるを憂ふ」また胸にきたことは「上下の區別なく必ず一つに食すべきものである」といふのでした、隣の皿に美味は此家では許されぬこと、此主義で此夏はやつて行かう、勿論本部の平常が此方針ですけれど、特に自分が責任を持つて食事の世話をする塲合は斯くの如くと決めました。

[illegible]

物價の高い今日家のキリモリをお務めにするのでは今日の塲合人々の望む需要供給に應ずるわけに行きません、買出しも調理も其心してやれば存外樂しい暮しが出來ることを實驗しました、本部は此事業に働らく者の爲に適當な住居にしたいと思ます、暑い時には心安く凌ぐ事の出來るやうに此家をしなければならないと思ます、散策には山王臺あり氷川境內あり、空氣の流通もよく自ら靜かな時も得られます、あるものを充分に利用して行くときは反つて無理算段をして外に避暑するに優ゝことは幾倍かしれません、私か外に行く一得は地方の風俗習慣を見聞することですけれども夏此家に居れば他から人樣が訪問して下さいます。

汽車にも乘らず船にもゆれず各地の趣味ある出來事や人情風俗を細かに伺ふ塲合もありました、また書物も常には讀で貰つて聞く時がありませんが、此夏は新刊書を初め求めながらまだ聞かなかつたものまで、聞く事が出來此上もなくうれしく思ふて居ます、疊なども讀書するを聞き〳〵自分でソロリ〳〵と拭けば艶も出てまゐります。思ひにました樂しい有意義な夏休を斯うして暮して見る事が出來ました。

基督教婦人矯風會の過去と將來

幹事　久布白落實

本來の目的

ウィラード女史は矯風會を說明して、唯一言　此れは「組織せられし母の愛」と云はれました、母たる事は、女子の天職の最も完全に現はれしものとして、過去數千年に渡つて認められた事です、母心は如何なる茅舍にも自由に生ひ立つて　悉く數年十數年、數十年に亘る訓練を受けて居ります　母心は全世界の婦人が共通に有する、最も偉大なる女子の持物であると申さねばなりますまい、母心の内には如何なる苦勞も意とせざる驚く可き忍耐力　如何なる敵をも恐れざる大膽さ　如何なる弱き脆きものを支ふるの持久力、如何なる時にも失望を知らざる希望と、信念があります　これ等の驚く可き力は、幾百千萬の隅々に箇々別々に養はれ　培養はれて今日に到つて居ります、この恐る可き潜勢力を發見して　之れを組織し、然して之れを偉大なる社會的母心として、今日の社會を抱かせたのが、即ちウィラード女史です、矯風會の本來の目的は此の潜勢力を婦人自らが發見して、之れを社會奉仕の爲めに捧ぐるに有ります。

過去に於ける矯風會の事業

過去半世紀に於て、矯風會は、何を爲して社會に奉仕致しましたか、それは度々繰返す迄もなく、酒との戰ひです、唯一つの酒と云ふものも、之れが社會一般の風俗、習慣となり、宗教的に晩餐式や、御酒として用ひられ道德的に三々九度、卒業式其他の公式に用ひられ、之れが文學にも、詩歌にも編み込まれて仕舞つて居る曉は、如何に神を畏れし眞面目な母が、心血を絞つて酒の害を云ひきかせても千に一人、萬に一人も之れを貫くことが容易で有りませぬ、然るに其害毒は火を睹るよりも明かに社會一家一身の上に現れま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

す、そこで始めて母の結合が起つて、箇人々々を禁酒さするよりも、之れを先づ、宗教、道德の祭壇より引きおろし、之れより社會的地位と權威を奪ひ去り、酒は阿片の如く毒物なりとの宣告を、最正面より下す時は、酒は遂ひに其勢力を失はざるを得ずと云ふ結論に達した結果、彼等婦人は、敎育、傳道、政戰、有ゆる方法に依つて母らしき底力を發し、根氣よく、半世紀に渡つて之れと戰ひつゞけました、今日酒は單に宗敎道德の問題でなく、能率、經濟、衞生の問題となり、酒を飮む事は損だ、愚者のする事だ、と云ふ處に到着して居ます、これは十九世紀末より、廿世紀にかけての人類の新らしき勝利と申さねばなりませぬ。

現在の日本に於ける戰ひ

今日私共が矯風會員として、日本に於て戰ふ可き事は、第一酒に違ひ有りませぬ、私共は此問題に於ても亦已に世界から數步の遲れを取つて居ます、現在米國の酒屋などは其造り貯めの釀酒を何處に出さんかと苦心最中です、我國などはズン〳〵其侵入を受けんとして居るでは有りませぬか、今年は少くとも、少年禁酒法案位ゐは、是非々々通過させ度いものです、來る十二月の國會開催の時は、全國の會員刮目して之れを凝視し、祈を以つて、手紙を以つて、出來得る限りの勢援を爲して、之れが貫徹を見度いと想ひます、又酒造全廢の運動を國家的道義戰として、是非實行し度いものと思ひます。

第二は即ち貞操の戰ひです、男女間の道德を養成する事、即ち結婚の法を男女間の理性に基いた愛、敬、信賴の上に置くこと即ち、健全なる戀愛の上に於くこと、男子も女子も、直接神に對する自己の尊嚴を知つて結婚前後其身を純潔にする責任を悟ること、此れに依つて始めて、眞の家庭の平和、子孫の幸福、を享樂し得ることとし、今日我國に行き渡る、大多數の家庭の不和、隱女、隱子の數を減ずること。

公娼私娼、海外醜業問題に對し、國民的大十字軍を起し、國家を世界的恥辱より救ひ出すこと、又我が可憐なる十數萬の姉妹等を、恥を恥とせざる不幸にし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て望みなき生活より救ひ出すこと、です。過日、萬國宣敎會社の申出に基き、慈愛館長、ペンロット姉は全國に於ける救濟事業の爲め、豫算を造つて、本部役員の協贊を求められました、會頭はじめ數名の者は、八月の中旬、本部に臨時會を開いて之れが相談に預りました東京、大阪、名古屋、廣島、長崎、仙臺、各處に家を設けて、淪落婦人の救濟に宛つること、天草、島原地方に特に傳道を開始する事、淺草の公園附近にテント傳道を開くこと等で、其豫算は八十五萬圓となりました、今日百萬圓を寄附して、葬儀處さへ作ろうと云ふ有志家の有る際、將來ある若き同胞婦人等が新しき生涯に入る準備の爲め、又無垢の多くの少女等がこの恐るべき罠に陷らぬ爲め、百萬圓を投ずる事は如何計り活き金を使ふ事で有りませう、私共は、愈々大なる希望を以つて、同胞の救濟を思ひ、神に求め、又人に求め度いと思ひます。

公娼全廢の實戰に着手せよ

いよ〳〵九月となりました、私共は今年の大會に於て爲した決議に基き、全國凡べての支部に於て、今秋は是非とも何等の形に於て、公娼全廢の實戰に着手して戴き度いと思ひます、先づ第一に昨年の表に基いて各支部處在の府縣下の公娼の數、廓の數を知ること、次は婦風會、敎會、市內婦人會、女學校、出來得べくば男子專門學校にも此問題につき特に講演會を開催し五錢袋を大膽に募集すること、婦人新報、廓淸誌を有効に用ふること、進んで縣會、市會を研究し、味方として立ち得る府會議員、縣會議員諸氏と親しみ、如何にして此問題を府會、縣會の議題と爲し得るか、其戰鬪の方法を研究する事、直接運動の一つとしては、今度準備されし「廓の娘さん等に」と云ふ手紙を百枚壹圓宛でお別け致します、それ故各廓の娘等の本名なり藝名なりを土地の警察か駐在所でお調べになつて、出來る丈け美しい封筒に入れ差出人を知られぬやうにして、五十人にでも百人にでも、乃至は十人か廿人にでもお送り下さることも一法だと思ひます、斯してその一人にでも直接救の手綱を投げる事が出來ますなら如何

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に幸福な事でせう、この手紙は、御入用なれば私宛に御申込下されば何時でも見本を御送りいたします、又御注文に應じます、何問題が他に在つても公娼と云ふ事は其女性の純潔に對する叛逆です社會が性を賣ることを必要とし、又た之是認するとです又女なる私共が之れを默視するは女性として之れを是認する事です。私共は母の膽力と、母の持久力を以て、間斷なき戰に依つて是非とも打ち勝たねばなりませぬ。是非とも最も近き將來に於て、此制度は打破して仕舞はねばなりませぬ、處女の愛と純潔は唯男子の高潔なる愛と純潔の外は千萬金と雖も之れを買ふ能はざるものと云ふ眞理を國民の心の底に奥深く植付けねばなりませぬ。

將來に於ける矯風會の事業

私共は未だ、社會的罪惡と戰ふと云ふ、矯風會として過去の事業なる、消極的方面に沒頭して居ります、然し、母の使命は生むに在り、育つるに在り、積極的事業です、消極的、戰鬪の事業は過去の社會の缺陷から來た止むを得ざるの結果です、各女性が天賦の寶の最も大なるもの即ち母心を組織して、社會の母となる事は、今後の矯風會の使命です、家に於ける母は、幼兒より、子供、青年、男子、老人まで凡べてに對して衣食住の配慮、保育、保護、獎勵、慰安、の責任を有します、社會の母も同様です、今日文明社會を脅す、嬰兒の死亡率と云ひ、不良少年少女の問題と云ひ、勞働問題と云ひ、養老、保險の問題と云ひ、人事に關する事で婦人の携はるを、免さゞる問題は殆んど有りませぬ、組織され訓練されたる母心は、今後の社會は手を拓いて之れを待つて居ます、我國の社會は特に之を感じて居ります、此度、外人東京支部の人々は、三萬圓の資金を募集して、矯風會の積極的事業として、本所に興望館を建てんとして居ります、私共は深き感謝を以つて、矯風會の將來に於ける事業の開始を喜ぶものです、私共は社會的罪惡に對する戰鬪を愈激烈に進むると共に一方、母心を以つて社會に奉仕する永遠の事業に進みたいものです。

* * * *

家を持たんとする若き人々に

淺田みか子

精神教育

是迄は體育、智育、德育、に就て述べましたが、最後に最も必要なる精神教育に就て書くことゝ致します精神教育も矢張り幼稚園時代、小學校時代、中學校時代及び高等の學校時代を一貫して致さなければなりませぬ。其中、幼稚園や小學校時代は重に準備時代で、此精神教育が一番効果を現はすものは中學校及び高等の學校時代で、大學に至れば、是迄の基礎に因て、自然に分別ある意志を以て、常識ある言行をなし、確乎たる人格を維持することが出來やうと思ひます。

何故に精神教育が必要かといへば、たとへ身體も丈夫であり、學問の成績が宜しく、品行が正しくあつても、此精神教育が施されてなく、ために確乎たる信念が心にない時には、中學或は高等學校時代に於て誘惑のために、其健康は害され、其好成績は下り、其品行は、亂れて參ります。

家庭に於て兩親が子供の模範と仰がるゝまでに立派な人格の人々であり、父は固より酒、煙草も口にせず、品行方正であり、母も教育あり理解あつて、一致して己れ等が理想とする方針に子供等を教育し、誘惑に對しては充分嚴格に取締つて、中學時代までは來り、中學時代には、學校の注意もよく行屆くが故に、まづ無事に中學も卒業し、高等の學校に入るを得し時に、兩親も本人もまづ一安心と、こゝに心が緩む時が、實に最も危機であります。學生は籠から出た鳥の思ひをなし、縱横無盡に濶歩し　今日まで兩親や教師等の注目と嚴重の規則の束縛より逃れ出でゝ、料理屋に入るも飮酒喫煙するも、まづ默許といふ境遇となり、或は自治を叫び、コンパとかストームとか或は同性相愛するとか種々の形に依て其自由の精神を現はし來り、現

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

代的とか融通がきくとかいふ事が時代に適應するものと誤信し、其氣は放大となり、其行ひは磊落となる。學校の成績などは餘り意に介せず纔かに大學に進み得ればよしとす。故に學課の勉强よりも軟文學に讀み耽つたり、新體詩歌の研究を始めたり、或は戀を歌つたりすることが人間を造るものである、學問の土臺となるものである、是が現代的であつて、學校の成績にのみ焦慮したり、石部金吉になつたりすることが、野暮であり卑屈であると嘲るやうな心底となるのは、高等學生の今日の趨勢であります。實に中學時代までは家庭と學校と非常に苦慮して、清潔に眞面目に學生を保護して來ても、高等の學校へ行つて後、此有樣になるに於ては、親たるもの丶慨きは實に言語に絶するのであります。夜の目も眠られないのであります。學問に精勵し、自分の學ぶ專門の學術の土臺を造るために學課に脇目もふらず直進することが、高等の學校に於ける唯一の目的ならざるべからずではありますまいか、若し餘力ありたらば、文學にせよ詩歌にせよ、高尙なものを玩味するは敢て妨げないのであります。然るを己が專門の學術に進むべき學課の研究は、い丶加減にして、學生の所謂現代的なるものに熱中するやうになつては、本末を轉倒するものといふべきであります。大體の高等の學生を見るに、中學生位までは、誠に沈默であり、腦病であつたものも、高等の學校へ入るやうになつて後は、驚くほど雄辯となり、快活となり、酒々飲み出し、喫煙を始め、戀などいふ言葉を云く々して憚らず、鄙俗の歌を歌つたりして喜んで居るのを見受けます。かくして社會に出て後、公然と種々の不品行をなすを却て得意とするやうになり。淫風社會の空氣を汚し、家庭を亂すやうになります。私は社會の不道德が其因を高等の學校に造るといふことを言つて憚らないのであります。其監督の機關がないからであります、よしあつても非常に薄弱にして、未成年者飲酒喫煙禁止などいふとも、成年者となれば公然と許さる丶が如き、社會の取扱ひであるからであります。固より不良少年といつて、少年時代に不良になるも

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

のも澤山ありますが、私のいふのは、智識階級に於て紳士といふものが、亂行を致しますのは、此高等の學生の間違つたる所謂現代的の考へより起るものであると申したいのであります。此高等の學校に至つて飲酒を始めないものは殆ど皆無であるといつてもよいといふ事であります。これを何とか致さなければ社會の不潔は決して淸めることは能きないのであります。さてこれを如何にして防ぐかといふと私の精神教育の大切なる事と又中學校時代に家庭と教師と連絡して苦心せしと同じく當局者の嚴重なる監督と家庭に於ても油斷なく指導することを怠らないやうにするより外ないと思ひます。

精神教育は如何にして施すか

是はどうしても宗教に依らなければならぬと思ひます。いろ〳〵な宗教はありますが、私はキリスト教を推したいのであります、其理由はキリスト教は（一）生ける神の照覽を信じて暗黑の行ひを恐るゝからです、（二）日曜學校といふものがあつて幼兒の時代から導く機關が備はつてあるからであります。（三）子供がこれから入つて行く教會は、西洋の文明を重に研究する所であるからであります。（四）進步したる讃美歌といふものがあつて、學生の淸き慰安である處の歌といふもののゝあるからであります。

子供をどうしてキリスト教に入れるか

初めは日曜學校にやることであります。敎會では大抵どこでも日曜學校は每日曜日朝九時から十時迄の只一時間のみでありますから、別に家庭として日曜を暮すに餘り妨げとならぬ範圍にあります、又朝は九時からで、かなり遲いのでありますから、折角ゆつくり休みたいと思ふ日曜の朝も、別に其意志の妨げともならぬのであります。日曜學校から歸つた時には、父母は其日課の話を聞いて見たり、又覺えた讃美歌を共に歌つて見たりするのです。戴いて來たカードの聖句を說明してやつたりして、修養の資に供せしめたりするのであります。かくて小學校位迄はすみ。中學校位になると聖書の講義を聞いたり、牧師の說教を聞いたりす

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る機關が備はつて居りますから、これに倣ふのであります。併して中學の三四年位になれば、英語の聖書の講義を西洋人が致します組がありますから、これに入りますと、語學の修得にもなり、西洋人の習慣氣風なども會得して、後日の學問のために大に利益となることがあります。殊に青山學院教會だの、明治學院教會などは學生のために特に說教するのでありますから、精神教育の準備は、智育の世の學校と同じく、整つて居ります。

其間には讃美歌に於て音樂の稽古も出來、同志相寄つて歌ふ時には種々のをもしろき清潔な慰安もあつてなか／＼樂しみがあります。六日間學校に於て頭を疲らしたる學生には、日曜日の此一日は、精神方面に向つて更に苦勞なき、寧ろ樂しき精神修養が出來るのであります。

其外に折々は親睦會があつたり、或は慈善のために盡す會合があつたりして、又此方面の善事をなして、社會に盡す方法も覺えるのであります。

かうして幼少の時から高等の學校を卒業するまで、連續して精神方面の教育機關の備はつて居る、キリスト教に修養せしむるならば、大抵の誘惑には打ち勝つて卒業するまで蹉跌なく行けるだらうと思ひます。

併し子供を日曜學校及び教會に托すれば、それでよしと安心しても親は居られないのであります。どんなに宗教に入れて置いても、學校の寄宿舍などに入る時は、所謂現代的の誘惑があつて、餘程固き決心のない以上は、此誘惑に負けるものであります。

家庭の宗教が必要

それ故に家庭に於ても、兩親がキリスト信者となつて、清潔な實行の模範を示し、始終學生の行動に注目してこれを横道に入らぬやうに指導する必要があります。一旦誘はれて、煙草などうかと手にしたり、ビールの一杯も口にすると其不眞面目な心が萬事に渡り、不正に誘はるゝもので御座います。かゝる傾向でも見えたら、大に戒めて直に止めるやうに、其芽生えを折らなければなりませぬ。だん／＼深入りするやうになると氣は大きくなり惡德も左程意に介せぬやうになり行ひは亂れて來、頭腦は惡るくなります親は子供が最高學問を終るまでは、一寸も目を放たず、見守らなければなりませぬ。一旦誘はれて深入りするまで知らずに居つた曉には、それこそ取返しのつかぬものと成つて仕舞ひます。嗚呼難いかな親たるものゝ責任！

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

島原天草の視察

實・O・K

動機

二月八日、林、クラゲット、宮川の三氏が西比利亞視察に赴かれて、一ヶ月の時日に、六七百圓の金員ヶ費して彼地に於ける、同胞姉妹の情況を調査し、歸朝せられしより、本部に於ては海外醜業婦防止會なるものを設け、月々相集つて之れが根本的方策について、常に研究の歩を進めて參りました。其節の調査の結果、西比利亞及び北滿地方の醜業婦は、重もに源産地は島原、天草などの報告に基き、委員等の意見は、然らば第二回の調査は、原産地なるこの島原天草に向つて發すべきものとの決論に達しました、然し其人選について非常に苦心しました、か丶る問題についての調査は、冷靜なる頭腦と、明晰なる判斷力、體力、經驗之れに加ふるに根强き熱情、か丶る資格を具備する人と委員等は熱心に之を求めました、然して其結果は、我が防止會研究員の一名、日本婦人面汚しの筆者布川靜淵氏に之れを依託する事となりました。

布川氏の努力

布川氏は目下農商務省に勤務して、年中の休日としては、夏期二週日を有せらる丶のみです、私共は大膽に、之の三週間の休暇を之の視察の爲めに提供せられんことを布川氏に向つて懇願しました。布川氏は幸ひに之を快諾せられ、終ひに七月中旬、暑を犯して、南下し、熊本縣、長崎縣 佐賀縣に渡り、島原、天草島を懇ろに視察し、八月始め歸京せられました。

調査の結果

布川氏は先づ各地に於ける縣廳を訪ひ、ついで各警察、駐在所、派出所を殘る限なく訪ひ、尚ほ、市役所村役場、神社佛閣について調べ、土地の出稼もどりの有名な婦人等にも會見して、種々精密なる調査を遂げられました、其結果はいづれ遠からず一本として印刷して、諸兄姉の御精讀を煩はしたいと思つて居ります、この調査の結果として、私共は今日まで心附かざりし

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

多くの新事實を發見することが出來ました、今其一二を手短かに御報告致しませう。

生活問題に迫られて

島原半島は約十八萬、天草島は廿萬の人口を有する長崎縣下、熊本縣下の一郡です、こゝは二つながら土地瘦せ、耕作物は大部分甘藷の類と、其他幾何の漁業あるのみ、島原町附近に唯一つの工場を有する外殆んど何等殖産工業の道なく、殊に兩郡とも、女子の數男子に比して多き結果、生活の壓迫より是非とも出稼せざる可らざる境遇なる事が重大なる一つの原因となつて居るさうです、ことに天草の海の如き、水清く、波靜かに、風光明媚にして人を招くが如き地勢にて、海を越えて出づると云ふ事に、何等の恐れを持たず、婦女子と雖も進んで、出づると云ふ有樣なるが又海外渡航を自然的に奬勵するとの事です、又出稼せし女等が財産を作り、衣服を新し、金を送つて、地を賑すことが、他の女子の出稼を非常に奬勵し、容易ならしむるさうです、或村の如き、一ケ村にて三百人の女子を海外に送り居るが如き、この地方の人々と海外とは最も近き關係を保つて居させるさうです。

道德觀念の缺如

最一つ大なる原因は、道德觀念の缺如です、兎にも角にも出でゝ生計の途を立つると云ふ事が、第一義となつて居る結果は、其爲す處の何たるかは問ふ處でないのです、それで出稼人には女中もあり、妾もあり、醜業婦もありですけれど、島人等は金錢以外には何等の見別けをつけませぬ、布川氏の調査によれば、村々の神社氏神の社などの建築　修繕に、殆んど全世界から、寄附が集まるとの事です、村の重役、神主等は世界到る處に散在する娘等に宛て、寄附を勸誘するさうです。この人々は、心淋しき折柄、皆喜んで之に應じ百圓、五十圓、二十圓、とそれ〴〵志を送り越すさうです、從つて彼等が歸國の際は、村は凱旋の士を迎ふる如く、子供等は、生れ落つるより社に詣で、シンガポール何の誰、百圓也、と云ふやうなものを見て育ち、自分も生長して、あの人等のやうに、出稼し

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

やうと云ふ氣で大人になるのです。

生活問題と、道徳問題、この二つは私共の前に投げ出された大なる宿題として、今後いよ／＼實地に研究せられ之に對する方法が講じられねばなりませぬ、私共は全國を同志が特にこの事について考へ、祈り、共々に立つて、之れが解決に努められん事を願ふものです。

ロンドンの夏

海老名みや子

健康を示すもの

其後は誠に御無沙汰申上ました。皆様方お變りもございませんか。扨私共も當地に參りましてはや三ケ月足らずを過しました。幸に健康で日々忙がしく暮してをります。二月上旬日本を離れまして以來、船中も亦上陸後も一回も食堂に缺席したる事はございません、此は健康を示すものと私共自身も喜んでをります。初めは直にパリーにと存じてをりましたが何しろ此處は世界の中心でありますから、此處から眺める方がむしろよく見えるやうな氣が致しまして、それに言葉の不自由なフランスでは何事も分り兼ねさうに思はれましたので、一まづロンドンを根據としてと、此處に落付いた次第であります。主人だけは先月一寸パリーへ參りましたが私は此處に止まりました。

質素な市民

三ケ月を過して見て益々ロンドンの偉大な事を感じます。こゝを以て世界第一の大都會といふ事は（其實質に於ても）誰も否むことは出來ますまい。實にロンドンは不思議な都會です。非常に込み合つてゐて市中は淺草の仲店のやうに足と足と、帽子と帽子とすれ合つて、乘合自動車や自動車 underground は人を滿載してすきなく往來してゐるかと思ふと、一方にはハイドパーク、リーゼントパークを初め大なるは青山練兵場を二倍したかと思はるゝ程のものが幾つも／＼あつて全く市中の雜沓を忘れしめます、且つロンドン人は如何にも野趣味に富んでゐて、粗服を著て郊外に出かけたり此の廣い公園の芝生の上で運動をしたり、此が都

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

人の集ひかと思はるゝ程質素なものです。こゝに英人の眞の價が見出されるのではありますまいか。世界の富を此處に集めても腐敗しきれない點は英人のこの野趣味に富めるとはたしかに一つの原因といつても差支あるまいと思ひます。ロンドン生れのロンドン人はなぜこんなに非美術的であるだらう、あの多くの人込みの中に居つて色取りの不調和な事を御覧なさい、此だけ金もあつて、何もかも揃つてゐて其點だけが發達しないのは不思議でならないと申されますから、私共は、それはロンドン人が衣服やそんな事にのみ趣味を集中させないでもつて 廣く心を用ひるからである、其無趣味な所が英人を大にし、且つ元氣をいつ迄も保つてゐる所謂であると申しましたら、そうかしらと言つてゐましたがフランスとは天地の相違であると思ます。

眞面目で信頼すべき美點

あるファショネブルな仲間を除いては、野暮で質素で不器用で、田舎人の觀がありますが、そこに何とも言へない眞面目で信頼すべき美點が見えて、無限の懐かしさを感ぜずには居られません、何しろ戰爭は人には非常な苦痛を與へました、それがためと思ひますが五十以上の老人達はめつきり年寄つて私共よりはずつとふけて見えます。もつと若い人々の中にも苦勞にやつれた面ざしがありありとよまれます。

精神界の人々が如何にして社會の立て直しをして凡ての方面をよりよき狀態に導かんかと骨折つて居らるゝ事は驚くばかりです。舊式で頑固なやうな點はありますが、何しろ道徳の訓練の行き届いてゐること、此點は其中にはいればはいる程感ぜられます。實に驚くべき國民であると言ふの外はありません。

國際婦人大會に出席

先日國際婦人大會がロンドンに開かれまして、私は日本からの代員として招かれまして三日間出席いたしました。ヨーロッパの十五ケ國、アジヤの支那、日本及びカナダから、都合十七ケ國の代表者が集りて種々の事を協議したのです。かの有名なミセス、フォーセット老婦人の如き、實に眞面目な優しい質素な、見る

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

からになつかしい方です。卅年來の婦人參政權問題に就ての歴史を話されましたが、其頭腦明晰にしてハキ〱と言はれる所は實に偉いと思ひました。私も此四十餘年間の日本婦人教育に就て述べましたが、それは今後の日本を紹介の積りで話しました。此三日間はずゐ分骨が折れました。私は大正婦人會からパリーへ向けて送つて下すつた紹介狀がありましたからそれを示して此外に、矯風會に私を喜んで此處に送つて下すつたので、其會を代表する事を忘れないと申して一言其模樣を話しておきました。

理解しあふが第一

何しろ日本語で自由に思ふ存分言ふやうな譯に參らず、且つ樣々の問題に對して速かな英語を以て論議さるゝのをきゝとる事は如何に骨折であるか、幼年の頃三四年もこちらに居て自由自在に英語が出來たらとしみ〴〵かんじました。然し兎も角も一生懸命でつとめましたから其點は御察し願ひます。不思議な程みんな心安く感じて少しも改まつた氣持にならなかつた事は非常な仕合せでございました。來年はノルウヱーで大會が開かれるさうですから、日本からも誰か御出席が出來て東に於ける大なる勢力となるやう今から祈ります。

方々の教會には隨分出席致しました。此から尚ほ二ケ月ばかりは此處に滯在いたしますから、個人として互の了解を得て、日本との親交を計りたいと思つて居ります。米國と違ひ、英とはどういふものか誠に相互の了解がないやうです。此は如何にも殘念であると存じます。日本人が兎もすれば英國人を誤解して、その異想を誤ること多く、誠に心を痛めて居ります。其處は吾々クリスチャンの立場からでなければ分り兼ねる事と思ひます。まづは御無沙汰お詫び旁々、婦人教役者會の方々へもよろしく願上ます。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

フランシス・ウヰラード

大橋房子

誕生

フランシス・エリザベス・ウヰラードは一八三九年九月廿八日にウヰラード夫妻チャーチヴイルに於ける結婚生活の第八年目にその第四子として、第二女として、此の美しい苗床の柔い黒土をもたげて、生命と希望の結晶のやうな若々しい芽を出したのであります。新生活の恍惚を先づ長子の早逝に破られて、俄かに親として目覚めたウヰラード夫妻は、最愛の寵児キャロラインの死後、打ち續く不幸に痛められた胸の熱情の全部をいとけないフランシスの上に注ぎかけました。ふつくらした赤ん坊の柔い頬の肉の一ふるへにも、眠つた幼兒の心の表現を讀まうとした若い父と母とは生れて一年と二ケ月しかたゝぬ人形のやうなフランシスの赤い唇が、既に親子の意志を通じ得る程ゆたかな言葉をほぐして行くのを見た時、どんなに喜び又驚いたでせう。しかしフランシスはどういふ譯か二度目の誕生日を迎へるまで獨り立ちでは歩けなかつたといふ事です。

いたましくも十四才の時から書記として又教師として、能ふ限りの勢力と能力とを投げ出して奮闘の生涯をつゞけてきたフランシスの父は、漸く成功の曙光を望み見ると、その頃新設せられた大學の雰圍氣に匂ひ初めたオベリンの地に目をつけて、多少蓄財のあるのを幸ひに、青年時代に捕へそこねた大學教育の償ひを今こそ取りにがしてなるものかと決意のほぞを固めたのでした。教師として夫と同じ經驗をもつたウヰラード夫人は、非常に求知心の強い優れた婦人でしたからもとより此の計畫に同意しない筈がありません。しかし聰明な母としての彼女は、幼にして既に敏感な、智的な素質を顯し初めたフランシスとその兄のオリヴア

ーとを、清新な學府の空氣の中にゆつたりと育てる事によつて、思ふがまゝにその天分を伸ばさせようとする孟母の心を味つて居たのではありますまいか。

その頃のアメリカは、あのクーパーのレザーストッキング、シーリーズに描き出されたやうに、尨大な大陸を縦に切つた文明の境線が、徐々に東から西へ、西へ／＼と移動して居りました。開かれた新しい土地へ移住してゆく歐洲人は、文明の光りを知らぬ無智な黒人の群が、まばゆいばかりのその光輝に打たれて、目をしばたゝきながら一勢に手をつないで、拔けかけた腰の背後に隠し終さうとした大きな暗い原始の野と森をおり／＼とおしせばめて、見渡す限りの地と人とを白日の下にさらけ出さうとして居りました。住みなれた親しみの多い土地と人とを後にして、見た事もない西方の新都さして旅立つた此の一家族にも、かうした開拓者の緊張した氣分が漂つてゐたでせう。いゝえ、それは移住者にのみ限つた感じではありません。切つても切り離されぬ密接な關係を結んだ土地と人との庇護の下を拔け出して、あらゆる不便と危險とを忍んでも、新しい自分だけの世界を構成し、見知らぬ異境に親しい關係を創作らうとするのは、私共の内部にひそむ遊牧時代の祖先の心のかたみであり、又私共の内部に巣くふ憧憬れの心の強い衝動でもあるのです。

一八四一年ウヰラード夫妻はよち／＼とおぼつかなく足を運び初めたフランシスとその兄のオリヴアーとを連れ、夫人の妹にあたるサラ・ヒル嬢に伴れてオハイオ州のオベリンに移りました。何事かしないでは居られぬ活動的なウヰラード氏は、直ぐオベリンに適當な土地を見つけて、子供達の爲に、又自分の趣味の爲に、自ら鋤を取つて樹木を植ゑたり下草をあしらつたりしました。數ケ月の勞作の後ウヰラード一家は氣持のいゝ新築の家に落ちつく事になつたのであります。

オベリンに於ける五年間の生活はウヰラード夫妻にとつて、又子供等にとつて忘れられぬ樂しいものであつたにちがひありません。殊に敏感なフランシスは、

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

父母以外の肉親の干渉を離れて、心ゆくばかり純な兩親の愛に抱かれながら、恍惚としてその愛の抱擁の中に幼い顔を埋めて行つたでせう。そして二人の胸から注ぎ出された香り高い乳汁は、なめらかなクリームとなり滋味の結晶となつて、彼女の生い立ちを助けたでありませう。いゝえ、それは燃えるやうな血の滴りとなつて、柔い彼女の全身の脈管に波打つてゐたかもしれません。『自分は死んで子の内部に生きる』と叫んだ母の血は、そのまゝにフランシスの肉となつて動いてゐたにちがひありません。

ウヰラード氏は晩學を誇る色もなく恥う景色もなく忠實に大學の課程を踏んで、古典の研究等に沒頭して居ました。一家の主であり父である氏の勉學は、家庭全體に一種の嚴肅な學研的、智的空氣を漂してゐたにちがひありません。夫にまさるともおとらぬ程學究心の強い夫人は、生れながらにそなはつた文學的天才を伸せば目ざましい進歩を見る事は確かであつたのですが、病弱な夫を思ふがまゝに勉强せしめ、自分の姿をそのまゝに見るやうな優れた二人の子をいやが上にもよく育てゝ行くには人知れぬ苦勞もあり努力も入りましたので、子の内部に生きるといふ精神から、我ながら棄てかねた野心を根こそぎに切り去つて、家庭と子供の教育の爲に全力を注ぐ事に決心したのでした。殊に移住の翌年、他日一家の寵兒として家庭を賑して花のやうにはかなく散る定命をもつたメリーが生れて後は、母としての責任を一層重く強く感ぜねばなりませんでした。しかし非凡な才能と向上心とを有つた夫人は、家事の暇々を見て大學の聽講に出掛けたり、搖籃の傍らに座つて、讀んでも〳〵興の盡きぬ古文學に讀み耽る事によつて、一度根こそぎに棄てしまつた筈の才能を、知らず識らずの中にぐん〳〵成長させてゐたのでした。

『お母さんはよく私を膝の上にのせて、愛誦の詩を讀んではその意味を説明して下すつた。そして私にそれがよくのみこめたのを見ると、今度は小さい椅子がテーブルの上に私を立たせて、詩句の意につれて動作を

しながらその詩を暗誦させるのが常であつた』とフランシスはその思ひ出の記の中に書いて居ります。古典に通じた夫人は時には靜かにあの湖畔詩人等のロマンテイクな詩に讀み耽る事もあつたでせう。近く海の彼方に輝き出た巨星のやうに大英國の人心の驚異と稱讃とを身に集めてゐるテニソン、ブラウニング等の思想も、それからそれへと傳つて、此の靜かな小屋の中にもその崇高な、微妙な韻律を顫はしてゐたでせう。無人の曠野のやうに荒れ果てゝゐた過去數十年の間、詩人らしい詩人の影も見えなかつたアメリカの文學界はそろ〳〵その黄金時代に目覺めつゝあつた。新英州を中心にして輩出する詩人や小說家の群を、自分の詩を殺す事によつて詩以上の、小說以上の創作をなしつゝある此の偉大なる母はどんな眼をもつて眺めてゐたでせう。

偉大なる母は子供の中にやがて覺めんとする偉大なる素質と、既に芽を出しかけた個性とを限りなくいとしみ又尊んだ。彼女は自分の子を如何なる時にも『いゝ子』として扱つた。それが又子供をよくする最善の方法でもあつたのです。『かわいゝ私の坊やは何處に行つたのでせう。きつと誰かゞあの子を伴れてつて、その代りにこんなしかめつつらをした子をおいてつたのでせうよ。』フランシス達がむづかつてゞもゐると、かう云つてやさしく機嫌をなほしてくれたと申します。夫人の教育法は凡て積極的でした。子供の悪戯を禁ずるよりも、善い遊びをするやうに助け勵すといふ方針でした。無理解な叱責の聲をあびせかける事なしに、子供の行爲をよい方に結びつけようとしました。『フランシスが門柱の上で演說してゐますよ。』と隣家の人に注意せられた時にも、賢明な母は嬉しさうに走り出てその雙手に小さな辯士を抱きかゝへながら、『あんな表立つた講壇に立つて、せつかくの演說を通りすがりの人達に聞かせるより、お母さんに聞かしてくれたらどんなによかつたらう。お母さんにはお前の云ふ事が誰よりもよく分るから、きつとお前が上手に話せるやうに助けてあげられたのにねえ。』と云つてきかしたとい

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ふ事です。きかん氣のフランシスはよく兄のオリヴアーと一所になつて男の子のするやうな事をして遊び度がりました。しかし聰明な母は『女のくせに』と妹の勝氣をくぢかうとはせず、却つてオリヴアーを勵して、妹を助けて一所に遊ばせました。幼年時代に於ける此の教育方針は、男女教育なり兩性關係なりの解決を暗々裡に語つてゐるもので、他日フランシスが婦人問題を考へる上にどれ程の力となつたかしれないと思ひます。も一つウキラード家の家庭教育の根底にあつたものはやゝもすれば深い溝に隔てられてしまはうとする母と子の心が、淀みない水路によつて絶えず連つてゐて、その通路を經て温い愛と血とが止む時のない程常に往來してゐた事です。それ故何か外で面白い事が起ると、全速力で家に歸つて殘らず母に告げ知らせてしまはぬ中はほんたうに樂しくなれなかつたとフランシスは云つてゐます。

その頃のオベリンは教育上、宗教上の中心地であると同時に、又改革運動の中心地でありました。南北戰爭前の事とて、當時の米國全體は奴隷制度が惡弊を極めてゐる時でした。まだストウ夫人の『アンクル、トムス、キヤビン』が全米の世論を沸騰せざる前ではありましたが、オベリンの識者の間には既に奴隷制度反對の氣勢が芽してゐました。ウキラード夫妻が熱誠をもつてその運動にたづさはつたのに不思議はありません。殊にウキラード夫人は、その頃相互の修養を目的として大學關係の婦人間に成立してゐた婦人會の一員として、風紀問題婦人問題等に非常な興味をもつて喜んでその家を會場にあてたりして居りました。當時全歐を狂ひ廻つてゐた革命思想は、當然かうした智識階級の婦人の話題に上つたにちがひありません。佛國に於ける一八三〇年六月の革命に相呼應して、イタリヤに、ドイツに湧き上つた革命の渦卷は、徐々に穩かに大英國民を開放して、自由の郷土アメリカになほも根強く巣くうてゐる奴隷制度に、最後の一擊を加へやうとしてゐました。かうした時代の思潮は、オベリンの空氣を通して、此の婦人會を通して、又此の偉大

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

なる母の口を通し心情を通して、小さいフランシスの胸にどんな響きを與へたでせう。否、すべての大きな歴史的背景は、文明の美名の裡に所嫌はずはびこつてゐる奴隷制度——酒に對する人心の隷屬、機械に對する人間の隷屬、男性に對する女性の隷屬——を粉砕せんが爲に、雄々しくもふるひ立たんとするけなげな一戰士、フランシス、ウヰラードを生んで育てる爲の遠まはしの準備だつたかもしれません。

夏のおもひで

花子

輕井澤

其のゆふべ、それは八月の初旬の事でした、美しい新月がほんのりと空に浮き出で、野には月見草が目醒めて來た頃、うすら寒い風におびやかされて、衿かき合せ乍ら、私は停車場から廣野を越えたかなたの河畔家と呼ばれて居る母校の寮舍へと車を急がせました。あわたゞしい三日間の旅、此の夏三週間の休暇を私共の事業の爲めに御割き下すつて、布川静淵氏が九州天草地方の視察に赴かれた御報告の一端を西洋婦人矯風會大會席上で試みられるのを、行つて拜聽して來よとの久布白夫人からの御命令で、取るものも取りあへず、上野停車場に走つたので御座いました。

久布白夫人を期待して居た方々に、私の姿はかなりに大きな失望を與へたらしう御座いました。輕井澤の停車場に御迎へ下すつたミセスなにがしの御顏には隱し切れない失望の色が現れて見えました。私とても決して久布白夫人の代理が務められる自分とは思つて居らぬ矢先ですから、少なからぬ心苦しさを感じました。

然しそんな思はホンの束の間。「夕さればよぢれてばつと花となる……」と何處で讀んだのか、不思議に何時でも記憶から離れぬ月見草の歌を何度となく胸の裡に繰返し乍ら、右にも左にも一面の其の花に、私は堪らない歡喜を注がずには居られませんでした。

初めて此の里を訪づれたのは十八の夏。其の春、高等女學校の課程を終了した私は前途に洋々たる希望を

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

懐いて、心合ふ友どちと、河畔の家に暑を避けて居たのでした。

　澄み渡つた空氣に、山鳩の歌が美しい振動を與へる朝ぼらけ、或は淺間の山が吐く息の紅く空を彩る黄昏時、人影見えぬ樹蔭にひれ伏して、大自然の背後の大御手を探り求めた記憶は今も猶心に鮮かで御座います。

　春去り秋來て、既に幾年、再び曾遊の地に立つて、其の當時の純一な氣分をたどつて見る時、變つたと言へば變つた自分に對して、哀愁ともつかず、憤りともつかぬ不思議な感情が、みなぎるやうな流を成して迫つて來るので御座いました。

　山の三日間は私に新しい方向を示して呉れました。何事を措いても先づ自己に對して眞實な者と成らうと決心して歸りました。大膽に自己の姿に向き合ふ事を恐れまいとの覺悟を、植ゑ付けられて來たので御座います。

　月見草咲く輕井澤の廣野！　君待つむしを名に負うた薄紫の小花も咲き亂れて居りました。

「片ほとりに咲く名なし小花にさそはれて、なみだよりも猶深刻な思が湧き出でる事がある」と歌はれてある言葉の其の儘を體驗させて呉れた信州の山野は今年大正八年の夏つ記憶としていつの日までも鮮かに私の裡に生きるので御座いませう。

　輕井澤情景——片山廣子女史著「翡翠」より——

花草の信濃たか原あさ行けば人の世遠くみそらのちかき。

霧ふかしうぐひすむせぶ雜木原とつくに人に路とひにけり。

朝風に霧はれゆけば山つばめ木の葉の如く吹かれて舞ひぬ。

わた雲とみそらと我となでしこと嶺にある日はいとさびしけれ。

月見草ひとり覺めたる高原の霧にまかれて迷ひぬるかな。

朝霧の底に夢みる高き木にうぐひす鳴けば我が心覺む

雲の影遠野をはしるまひる時みねに立ちつゝ我がいひしこと。

日ごろ我が思はぬ人もいと戀し日の入りあひにみやまどり鳴く。

此夕べ淺間の烟かゞやきてにほふ入日に寺の鐘なる、

遠山と我と立つ時やみに伏す大野のむねにおつるいなづま。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

□□初旅の憶ひで□□

西伯利視察員お伴の記

宮川静枝

四

煙草の烟の立ちこもつた重苦しい空氣のうちに二月十一日の朝は明けた。片田舎の山家なつかしい紀元節である。

遠き古へ、神武の帝の橿原の地に於て大和民族の君となり給ひし日と思へば、異邦にある身も心は春永久に住む故里へと立ちかへつて、傳説の香りと共に私共の間に生き給ふ生命永き大帝を偲び、山の緑つきず、水は澤に、心の限り自然の美を享受すべく殊更に恵まれてゐる國民の一人として生れ、最も變化に富み最も複雑な今の世の一人として生れて來た事を嬉しく感じた。浦鹽に於ける第一の朝が此懐古的な紀元節であらうとは!

擂り減つた階段を下りて地下室へ行くと、すぐ取つつきに暗い流し元があつて其所が洗面所である。瀬戸引きの洗面器に七分目位の温まい湯が入れてあつて其中に嗽ぎにとてコップ一杯の湯の入れてあるのを支那人が持つて來てくれた。この水は零下十幾度といふ寒い朝を支那人が大きな聲を森閑とした朝に響かせて賣りに來たのだと思へば水といふものゝ尊さがしみ／＼と思はれる。あの抑揚のない單調な濁り聲!私はあの聲を聞いた時あの人達の祖先は私達の祖先に文明を傳へてくれたのだ。そうして高僧賢人か木の葉のやうな舟に身を任せて只管に文化を求めて洋行したのもあの人達の國だつたと思ふて寂しい感じを抱いたのである。

洗面所の奥は此宿の主人夫婦の住ひであり又料理場であつて凡ての料理は主人の手でされる。洗面所の隅には市場から買出して來た鰊や鮭がゴロりと無頓着に置かれてある。

三つの暖爐はその全身から熱を放つて家全體を五月頃の温さにしてゐる。暖爐は二抱へ位もありそうな恐ろしく巨きいもので高さは一間或は一間半もある、大抵は壁の間に築き込まれてゐるのであるから一つで部室が三つ位は温まる。内部は煉瓦で厚く築いてあるから火事の心配もなく、石炭或は丸太などが充分燃えて火になると上の方に設けてある瓣で暖氣が外に洩れないやうにしてしまうので朝一度燃せば一日中の暖氣が取られ、夕暮に燃せば翌朝迄充分暖かである。火事の燃跡に暖爐のみがぽつれんと殘つてゐるのを見ても其堅牢さは知られやう。ロシヤ人は丸太が二本もあれば充分一日の暖氣を取る程に熟練してゐるけれ共日本の兵隊さんは調節器の使ひ方も分らず薪ばかりどん／＼燃したので最初は隨分ロシヤ人に笑はれたそうである。

朝飯は九時頃である。七八寸もありそうな尖つたパンは丁寧に切つて積み上げられてゐる。宛然三つの塔が巍々として聳てゐるとでも形容したい程に見事なものでほんとうに時ひがいゝ。バターの代りに磨き上げたばかりの紅石の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

やうに一粒一粒が丸く鮮かな餅の子を持つ來るその紅は味ひと共に目に快い。此外にお茶が出てゐる。簡素で美しくて口に快い！

十時頃青年會の岸田さんと田邊さんがお出でになつた。私達五人は凍てついた凹凸道を領事館へと行つた。零下十度の冷い乾燥した空氣の中を。

路行く人々は誰も彼も立派な體格をしてゐて顔色のいゝのが羨ましく思はれる程で、みんなの元氣よく吐く息は眞白である。通る人々の中には軍人の多いのに驚かされる。聯合各國の軍人は黄や青や茶やカーキーなどとりどりの色を用ひた美しい軍服に堂々たる長軀を包んで意氣揚々と歩いてゐる。宛ら軍人の展覽會のやうである。美しい外國の兵士に比べて日本の兵隊さんは猪武者の觀がある。汚れて灰色になつた軍帽の毛はノロノロと逆立ち、襟元や手頸のあたりにも灰色の毛のもぢやもぢやしてゐる外套を着てたとひそれが數人でもちやんと列を整へて町を行く様は、だらしなく三々伍々に歩いてゐる他の軍人達の間に目立ち、だらしのない町全體の空氣を慄かせてゐる。日本の兵隊には邪氣がないと私は思ふやうな事もあつた。

人々は皆温かそうな毛裏の外套を着てゐる、けれ共私を驚かせた事が一つあつた、それは、若い婦人の中には透して見ゆる薄い絹の靴下に裾短かに着て平氣でゐる事であつた。一つは習慣であらうし一つにはエメによつて與へられた肉體の美の目的を意識してゐるからのやうにも思はれた。町を通ると婦人の外套の美々しさに快感を覺える。彼等の生命は外套にあると言つてもよい程高價なものを用ひてゐる。私は純黒な天鵞絨の外套に同じ帽子を被り菫の一束を襟元に飾した艶かな婦人を見た。何所となくアンナを思はせる人だつた。

私は美しい人達を多く見かけた。

町は丸い石が舗き詰めあるので其上を走る無數の蹄の音は此上もなく騷々しい音を間斷なく湧きかへしてゐる。馭者は卷毛の帽子に裏毛の青か黒かの皮の上衣を着て紅木綿の扱帶でグイと腰を締めて極端に生眞面目なそうして朴訥な顔をして巧みに馬を驅つてゐる。浦鹽の交通機關は馬車である。自働車が來たと思ふとそれは軍用のであつて眞に少い。實際あのやうな道路では文明的な道路に適すべく造られたタイヤは一堪りもないだらう。電車はあつても不規則で何時來るとも當にならない。

大きな日章旗を交叉した石造の家、それは總領事館である。

私達は御眞影を拜した後、服を改めた安田氏に面會することが出來た。夫人も共に席に出て種々話されたが氏は私達が帶びて行つた其の使命に對して深く感激されて種々話し

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て下さつたが、私は其話によつて源泉を深めなければならないといふ信念を一入深うされた。海外醜業婦の根源地と目されてゐる長崎縣の島原五島、熊本縣の天草等に特別の敎育をするといふ事は矯風會に對して氏の切に望まれた事であつた。此外佐賀縣廣島縣山口縣等からも多く行つてゐるといふ事である。

私達が歸らうとしてゐると女子青年會の河田さん方がお待ちになつてゐるといふ事だつたので別室に行くと元氣のいい三人の婦人がゐた。六人の間にはそれから〳〵へと話がすゝんだ。河田さんはよく働くその瞳を据ゑて、憂へ顏に海外にゐる婦人を救濟するにはどうしても根本を正さなくては駄目な事だと思ひます。そして婦人がもつと〳〵本氣になつて努めなければどうする事も出來ません、單に矯風會といはず、青年會といはず、それがどの團體であつても構ひません、ほんとに、もつと婦人が覺醒して全國の婦人といふ婦人が總立ちになつて努力しなければいつ迄たつても事の成就する時はございませんもの。ほんとうに可愛相でもあり、困つたものです。私共は今度は此處にぜひ支部を設けたいと存じて參りましたけれ共御覽の通りの土地柄どうする事も出來ないで居ります。」と話した。此人々は毎日軍人の慰問や個人訪問をしてゐるのである、

私共は種々話してゐるうちに、東京を出る時二百人計り歸國したいと言つてゐる娘さんがゐると聞いてゐたけれ共、それは何の根底もない噂らしい。

私共が歸へる時岸田さんは、土を見つめて歩きながら「ロシヤでは、あの頭巾を被つてゐるのは女中とか乳母とか、つまり下等社會の婦人で上の方の人々は矢張ちやんと帽子を被つてゐます」と言つた。私は更紗の入つた頭巾を被つてゐたので下等社會の人と間違へられると暗に注意されたのだと思つた。で、私は言つた「此頃では下等社會の風をしてゐた方が安心なのでございませんか」すると岸田さんは仕方がないといつたやうに「ネー」と低く言つた、實際町を歩くと顴骨の尖つた頑丈な婦人が柔い毛織のショールを無雜作に格好よく被つて大跨に歩いてゐるのをよく見る。その柔い輪廓は優しい感じを與へさせる。

私共は午後朝鮮町に行く事にして一まづ宿に落ついた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

美しい家族

その二

ジョージ・ギッシング
安中花子 譯

ミス・シエパーソンの眼は、母親の命令の儘に客間を出て行く子供達の後姿を追うた。扨て今日此處迄出掛けて來た用向を如何な工合に切出したものかしら、思案は一向に附かなんだ。此の穩かな家庭の中で、法律の話をしたり、强迫がましい事を言つたり、そんな荒々しい仕打がどうして出來ようぞ。有難い事に、其の忌はしい問題を此方から持出す必要は無かつた。

「つひ昨晩で御座いました、良人と二人で御噂を致して居りましたんですよ」客間の入口が閉まるや否や、ヲイマー夫人は隔ての無い調子で斯う話し出した。

「私に好い思附がありましたの。誠に好い思附だと、自分乍ら感心して居る位なんで御座いますが、肝心の貴孃は何て仰やいますでせうね？あのう、確か貴孃はたつたお一人で、下宿住ひを遊ばしてゐらつしやるつていふお話でしたわね。左様で御座いますでせう？」

「ハイ」ミス・シエパーソンは頻に氣を落付けようと焦るのだつたが、胸中の不安は包む由もなかつた。

「左様で御座いますかねえ……………一體それは御自分の御望みですの？餘り立入つて人様の事を伺ふやうですが、ロンドンに御親戚も御在りなさらないんで御座いますか？嘸御寂しい事で御座いませうね、私どうにも御痛はしくて堪りませんわ」

誠に聲音の柔しい此の淑女は、いとほしげに、首を傾げて問ひ掛けた。

苦もなくミス・シエパーソンは釣込まれて、身上話を始めた——極めて强硬に、自分の主張を通さうと決心して居る矢先には、其の身上話は、誠に都合よく、談判の緒を作つた。家族の歴史も概略話し、現今の財政狀態も明かにした其の後で、

「まあ、斯ういふ事情ですから、隨分と氣を附けて、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

内輪の上にも内輪に生活して行かなきやならないんで御座います。全くのお話が、今の所、私の頼てにして生活して行く收入と言つたら、此の家一軒なんで御座いますからね――それで――まあ、それで――」

愈々言はなければならない瀬戸際まで來たが、又々其の苦しい羽目から助かつた。柔い手をミス・シエパーソンの不格好な手袋の上に載せて、溢れるやうな愛嬌を見せ乍ら、ライマー夫人は最前の其の好い思附といふのを發表した。此の家に一間空間がある。ミス・シエパーソンが其所へ入つたら如何であらう――勿論此の家の家族の一人として起臥するのだ。何も面倒は無い、規定は規定だから、萬事勘定正しく爲るのだが、勘定正しく爲る中にも、人情を入れ、溫情を入れて、取り行ふのだと。こんなやうな提議であつた。借家料として、ライマー家からミス・シエパーソンの方へ支拂ふ金額がある、其の中からミス・シエパーソンの部屋代と食費を――先づ大體一週十五志（一志は大凡我が五十錢に當る）の見當で――差引いて行くとする、決算期を次の夏至として、其の時に萬事勘定正しく總計算をして、其の上での殘額は其の場で、ミス・シエパーソンに支拂ふ、若し此の方法が双方に滿足の行くものであつたら、其の後も其の儘繼續する事にしよう。部屋代と食費を借家料の中から差引いて、其の殘餘額は四ケ月毎に、極く〱精確に拂込む事、是でミス・シエパーソンには眞實の家が出來るわけ、凡ての慰安を具へた家庭に起臥する事が出來、ライマー夫人の方から言へば、家事や子供の世話に追はれて、餘り世間へ出られぬ淋しさを同情深い友人に依つて慰められる事になる。

此の善良な淑女は斯うして自分の計畫を話す中にも、熱心は愈々深まつて、遂には聲さへも慄へて來るのであつた、そして眼を瞠つて、相手の答如何にと待つのであつた。

餘りに話が意外なので、ミス・シエパーソンは辻褄の合つた返事さへ出來なかつた。不思議も不思議、餘りにもの珍らしい此計畫には唯驚くより他なかつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

自分風情よりずつと身分のよい此の人々から、一緒に來て同じ家に住むやうになんぞといふ招を受けたので、全く度肝を拔かれて仕舞つたのであつた。同時に又、家庭生活に對する生來の憧憬は確かにそゝられて來た。然うした生活に入つたなら、無聊に苦しむといふやうな事もなくなるだらうし、又多少役に立つ仕事も出來るであらうとも考へた。そんな事は二の次としても、第一自分の經濟上非常に得が附く話なのである。ライマー夫人はなほも言葉を柔しくして、頻に此の計畫の實行を勸めた。やう／＼の事で、ミス・シエパーソンは吃り吃り、言葉を出した、

「ですけれども貴女、食費と部屋代で十五志とは餘り御廉過ぎやしませんか」

「飛んでもない！そんな事を御心配遊ばしますなよ、貴孃」ライマー夫人は元氣よく叫んだ。

「一軒の家の中で一人增えたからつて、然う／＼違ふものぢや御座んせんわ。私共の方ぢや決して損なんか致しやしませんから、御安心遊ばせ。然うでなかつたら、あの智慧者の良人が贊成致しますものですか。御存じでも御座いませうが、唯今の所、私共でも一寸生計向が不如意になつて居りますんですよ。昨日のあの手紙は良人が仕事から歸らない中に書いて差上げたものなんですが、歸つて來ての話で、私仰天して仕舞ひましたの。後一と月以上も立たなければ、貴孃の方へ御拂ひ出來ないつて申しますんですもの！全く途方に暮れて仕舞ひました。「それぢや、ミス・シエパーソンにもう一度手紙を書かなけりや……目論見違ひを御させしちや申譯ないから」つて言ひましてね、それから又色々と二人で相談して居る中に、フッと唯今の考が胸に浮んで參りましたの。

ねえ、私は決して術を廻らしたり、企らみをしたりするやうな人間では御座いません。今日迄の間に、唯の一度だつて、人樣をだましたなんていふ事は御座いませんの。斯う申しちや何だか恩に着せるやうに思召すかも知れませんが、今度の此の事は、かなり貴孃の方の御爲めになる事だと考へて居りますんで御座います

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

よ。貴孃にしたつて、然う御思ひになりますでせう、ねえ、まあ是が正直なお話で御座いますわね。一つ部屋を御覽になつたら如何で御座いませう？ 散らかつては居りますが、それでも御氣に召すかどうかは、大抵見當が御附きになりますでせうからね」

何時の間にかミス・シエパーソンの心は此の話に捕へられて居た、それに好奇心も伴つて、怖々乍らも立上つて、笑顔美しい案內者に從つて、二階へ上つて行つた。二階の其の空間は裝飾と言つても、極めて簡單なものであつた、然しアクトン街の下宿屋の寢室と比べたら、まるで比較にはならなかつた、餘りに其の相違の烈しいので、ミス・シエパーソンは覺えず叫聲を出した程であつた。ライマー夫人は流れるやうな能辯で、猶其の上の手入を約束した。ミス・シエパーソンの健康狀態にも注意を拂つて、色々と問を出して、病氣は滅多にしないと聞いて、非常に滿足を見せた。ミス・シエパーソンが簡單で滋養分に富んだ物を常食とすると聞いて、是にも大贊成だつた。其の他の部屋をも案內して見せたが、階下に下りる時には、ライマー夫人は既に萬事が決定したやうな口振で語つて居た。

「御晝飯を召上つていらしつて下さいましね。召上つていらしつて下さらなけりやいけませんわ。御飯も召上らないで、此のお天氣に出ていらつしやるなんて、そんな事があるもんですか！ さあ、客間へ子供達を呼びませう、貴孃とも今からお近附にさせて置き度うございますの。子供は御好きですわね――然うですとも、子供好きの事は御聞きしなくたつて分つてますわ」

ミス・シエパーソンは晝飯の御馳走になつた。夕食にも殘つた。六時頃になつて、愈々暇を告げた時には、何も彼も相談は出來上つて居た。其の日から一週間後に、ライマー夫人の家へ引移つて、新しい生活を始める事に定つたのである。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

各地通信

大牟田支部

八月十日の炎天やくが如き午後二時半より當支部に於て久しく米國ロスアンゼルス市に在て吾が同胞の爲め傳道に從事されたる田中義一牧師の三ヶ月の御歸朝中に御來牟なりしを好機として臨時集會を催すまづ桐山支部長司會の下に禮拜、次で田中氏は過去に於ける日本婦人が米國に於ての地位生活狀態より現在の有樣及び將來に於ける海外婦人の覺悟および一般日本婦人としての心得等詳細に亘りて講演ありき。海外にある同胞及びその婦人の活動振りを知る得同時に國内にある婦人は如何に後援し且つ斯ろべきかを思ひ又家庭内にありて日々の細事を整理する上にも又今後の社會に活動すべき子女の教育の上にも何事によらず世界的に見る事の必要日本民族の發展或は日本婦人としての立場など種々學びし事を感謝しつゝ閉會す、此日突然の集會なりしため來會者二十餘名なりし事は殘り多き事なりき。終りに本部、各支部の上に主の惠みの特に豊ならん事を祈る。

宮本　廣報

弘前支部

母の記念日を守る、來會者中の母方は何れも委員より贈られし花を胸につけて着席、禮拜の後山鹿牧師には偉大なる人格の背後にある母の苦心につき、モーセ其他數多偉人の例を引き母の手は家庭を支持し、國家を支配し斯くて世界人類の運命を支持するものであると最も興味と教訓とに富める說教あり一同大に益せらる十一時半散會す、來會者男女八十名餘。

高杉　つる

聖經女學校青年部

五月に役員を左記の如く改選して、力を盡して働かうとして居ります。

會長　近藤千枝子　書記　山田はじめ
副會長　大島靜江　會計　鴨島ふさよ

山梨英和女學校青年部

六月六日花の日には會員一同手配けしてマガレット、矢車あやめばら等の花束百二十許りを五つの病院に送りました。ある病院では患者の乞ひに應じて讃美歌を歌つたり致しました、中には献金して下さつた病人もあります。四月より例會度數二、六月は衛生に就いて研究しました。

神戸女學院青年部

四月の新學年には八十名の新會員を得ました、私どもの手で新たに、少年禁酒軍を起さうとして居ります。五月に校内でバザーの開かれた時には、女子青年會と協力してアイスクリーム其他の賣店を開きました。

慈愛館臨時役員會

八月十八日午後七時より本部會館に於てクヲテントン救濟團役員會を開く、出席者、矢島、久布白、渡瀨、皆川、守屋、宮川、ペンロットの諸姉。

久布白姉開會の趣意を述べペンロット姉の說明あり各自意見を述ぶ。

一、救濟團發展につき其豫算案の組立をなす、

皆川姉の祈を以て閉會す。

公娼全廢五錢袋決算報告

（四、五、六月分）

收入總額

一金六百六十一圓五十八錢五厘也

内譯
一金二百二十九圓九十三錢　前年度繰越金
一金二百二十八圓二十三錢　四月入金
一金百〇六圓十五錢　五月入金
一金九十七圓二十七錢　凨六月入金
支出總額
一金三百七十八圓四十五　也
一金九十三圓四十錢　昨年度報告洩れの分
内譯
一金三十七圓四十錢　印刷所へ支拂
一金二十五圓　聯合演說會費用
一金二十五圓　用箋五十冊代
一金六圓　鄕淸諸へ仕拂
一金六十三圓四十二錢　四月分仕拂
内譯
一金五十三圓四十二錢　小袋印刷代
一金十圓　郵稅雜費四月分
一金二十八圓也　五月分仕拂
内譯
一金二十圓也　上州講演旅行費
一金八圓也　郵稅雜費五月分
一金百九十三圓六十三錢也　六月分仕拂
内譯
一金九圓　鄕淸へ
一金二圓六十三錢　平塚講演旅行費の中額
一金四十圓也　日本婦人面汚し印刷代
一金廿五圓　婦人新報三百部代
一金十七圓　郵稅發送諸雜費
一金百圓也　鄕の娘さん等に。教育運動(三)印刷代の内へ
差引現在金
一金二百八十三圓十三錢五厘也
大正八年八月二十九日
會計　川崎正子
右相違御座なく候

□□編輯室より□□

エー、エム

□いつさなしに秋風が立ちそめて心地のよい朝夕になりました、然し晝は土用にもました暑さでございますが、諸姉御健在でございますか、會頭は此夏は東京にお住ひでございました、常には届きかたい本部のあちこちを指揮して淸潔にお掃除下さる事から、人少なの事務所の出來事について一々お世話下さいました。廿日餘り旅して歸つた眼にはあまり行届いたお掃除に驚きと感謝とを捧げたやうな次第です。

□只暑い／＼とすごす人の多い中に會頭のお身のお使用振りは若いものゝ手本で御座います。御自身先になつて雜巾掛をなさるのですから、會館の廊下はヒカッテ居ます、思ひ掛けぬやうに支部の方のお見えになる事は一番のよろこびです。

□下の関の末長夫人が來訪されて會頭をお喜こばせ下さつたお話も風涼しい夕刻パーラで會頭から伺ひました。奥の十時姉も一寸御上京お立ち寄りになつたそうです、大阪の林歌子姉は紀州の醜娼問題で御上京でしたがあやにく臥床されました、會頭はコツ／＼と其食事のお世話迄なさつたと見た人達が申ました、會頭の食事に對する御見識は一種のものがあります。或はそれが長壽の法かもしれません。

□姫路の高田姉高山の歸りに御寄りになつて、此秋の大運動に久布白幹事の出張を乞はれましたが、同姉は來春迄は旅行は全く出來ない事情で失望なさつてお歸りでした。各地が動き出す時本部に人の少ない事は一番殘念です。

□然しまた働きに伴ふ財力も大切です、千本木財務部書記は暑い日も熱心に如何して財力を得んかと働いてお出です、一番に帳簿の整理から初まり、會員の喜んで頁ふべき責任までを着實

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に調査しておられます全國の姉、一丸を送て此報の爲に力を添へて下さいませ。

□暑中休暇を捧げてシベリヤ委員會の乞を入れ天草島原に調査の爲出張して下さつた布川静淵氏の報告書は一冊となつて出ます、其前に同氏の報告會の一般は久布白姉が本號に記載された如くであります、私共一同は布川氏の御盡力によつて「何をすべきか」漸く一縷の光を得ました。

□婦人週報の小橋姉は廿四日無事にスヮ丸で渡米されました。前日内務省から歐米の娼妓問題の調査の囑託を受けられました婦人の外航者に官省から斯くの如き調査を依託されるやうな世になつた事を御同様うれしく感ます。

□同姉と共に女醫大會に出席の目的で麴町支部の井上友子姉も行かれました。同姉は十四年前トロントに婦風會の大會が開かれた時日本の婦風會を代表して出席された方です、此二人の姉妹の行を壯にする爲會頭は東京驛まで見送られました、「元氣のよい旅立で涙など出るものぢやありませんよ」と申されました。世界は實際狹く且親しくなつて來ました。兩姉の上に神の守護を祈る。

□□新刊紹介□□

□小　草（愛兒の憶ひ出）

金澤　甚衛
同　　まつ　合著

「小草」は信さん（四つ）を失ふた御兩親の書です、信さんは僅か數日の病床から天つ御國の群に入る爲に其御兩親の手から逃れてゆかれたのです。飾らない、そのまゝな、父と母との悲しみの心の歌です、ありのまゝの言葉です。

よく何とかいふて勵ましたり、なぐさめたりいたします、愛兒を失ふた母に、父に、對して。でもそんな勵ましの言葉より、慰めの爲の訓しよりも、愛兒喪ふた父、母、は、一緒に泣いてもらうがうれしいのです。

著者は其「はしがき」に

共に泣かうために、
たゞ共に泣かうために
同じ涙をもつ多くの人々のものとしたい心から
この恥かしいものを公けにします。

とあります。

愛兒を失はれた友に贈る本として此「小草」を心からおすゝめします。

（定價一圓　送料八錢　婦風會本部取次）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

will fulfull it well." "And what of you oh tree? have you too a mission which calls for your life to fulfill"? and the tree told of wood needed for fire to bake the bread, and of timber needed for boats and houses—work worth doing. The wheat no more lifted its head in careless gaiety for it had learned the lesson of all true living to value *life* by the *service* it would be able to give, and it rejoiced as never before.

But one Kernel did not share these feelings. It thought "I do not want to die in the dirty ground or be smashed in the mill. I want to stay here and grow bigger than any other plant and live my life for myself. Why should I give my life to serve others?" So it shrank away more and more from its earnest hearted brothers and thought only of itself.

When the wheat was winnowed this kernel was surprized to find itself the smallest of them all. "However that is not a bad thing," he thought, "I can more easily hide in a seam of the bag." So when the others went forth joyfully to their mission he remained snug in his cranny. A year later when the bag was again brought out for use a little speck of mildewed dust fell out—Not even a rat would touch it. The little Kernel had lived it's life for itself as it wished, and had served no one.

So ends the story of the useless grain of wheat, but Christ's thought does not end here. In wheat, or tree, or human beings, there is no other measure of life than that of *service*. What are we doing of the work that God wants done? What are we doing to uplift and purify and enoble the human Family? In answer to such a question will you say that you have made so much money, or succeeded in gaining some position you wished for? Such a life is no more than that of the mildewed kernel. Such life is death—a dead soul in a living body.

Never before in the History of the world, have the forces of good and evil so stood before the eyes of men as at this time. No longer is it possible for a Nation or an individual to stand apart from this World movement. Our opinions ond sympathies and efforts must be on one side or the other. Neutral! Where is the neutral ground between Truth and Falsehood? Between justice and Tyranny? Between helpful kindness and brutal selfishness?. For four long years men went forth in ever increasing numbers, leaving all self-interest behind them, in fierce heat, in bitter cold, in drenching rain, counting not life dear, if they might secure to the world a *permanent peace* based upon *Truth* and *Justice. That* was *their service* in the Great Worlds struggle for God and Mankind—Ungrudgingly, uncomplainigly, they gave it. What about yours and mine? Something we may each do for the help of those who suffer in the countries devastated in this struggle between good and evil. But the real contest is not confined to those countries. Wherever there is wrong or injustice of any kind, there must the men and women who side with God, enter into an uncompromising war till evil is overcome. Are there no such wrongs within our reach? Are there none about us who are away from God, and who do not know of his message of love and hope for them, whom we may teach? What about the women and girls in the factories of Japan toiling under conditions which kill both body and soul—200,000 thus destroyed yearly? What about the hundreds of thousands of girls leading immoral lives, not from their own choice, but that others may make money out of this foulest of murder?

Work for such as these calls for sacrifice, Yes, but sacrifice is *life*, and Christ is in it—And where Christ is there should his servant be.

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

FUJIN SHIMPO

Our Responsibility in the World's Struggle

I. S. Blackmore

A Fable—Not From Esop.

"Except a grain of wheat fall into the ground and die it abideth alone: but if it die, it bringeth forth much fruit." John 12: 24.

For a long time this parable of our Master has lived in my heart as a vivid picture of the essential truth of Christianity. Let me try to put before you the picture as it lives in my mind.

A broad field of wheat in which the Kernels are just forming is waving, fair and green, in the summer breeze. A happy company they seem to be rejoicing in the sunshine and the breeze, as they rejoice in the soft showers of the night. Each swelling Kernel feels its own growth and rejoices in that, and in the growth of its brothers too. Care-free they enjoy the present without thought of the future. But the field of the wheat is not all of the picture. There is a large tree by the way-side whose heavy foliage throws a pleasant shade from the noon-day sun. Here a group of passers-by have tarried. They are engaged in earnest conversation. The central figure we know at once as He who spoke as never man speak." His face bears the impress of a heart and mind that have reached the lofty height of self forgotten in service; and something of that noble joy that has its roots in pain, which shines in His face is reflected in the faces of his friends. They have been with him now almost three years, learning from his words and his life those truths which received into our humane hearts purifies them and gives a new meaning and an earnest purpose to life which lift us above the sordid, selfish cares that narrow our vision and dwarf our souls. But now the hour of parting is near—the good shephered is about to give his life for his sheep, and seeks to help them to lift their minds from the sacrifice itself, to see beyond it to its results. "Except a grain of wheat fall into the ground and die it abideth alone; but if it die it bringeth forth much fruit." With unspeakable majesty the words roll out following the glance of the Master's eye over the field of waving grain.

Strengthened and comforted with the light of a new understanding dawning in their hearts, the disciples follow their master as he goes his way and all is silent.

The dancing heads of wheat are bowed in thought. Then a whisper arises among them, "What does this mean? Have we something to do in the world? Are we not always just to dance in the sun and be happy? Have we indeed a mission in life, and must we die to fulfill it?" A troubled sigh is borne out on the breeze. Then the tall tree by the way side bent down its drooping boughs and whispered the perplexed wheat, some of the things it had learned in the years it had stood by the way side. It told of all things God had made and of the work God had for each in this World —Of birds and cattle and people to be fed and now they would languish and be unable to do their part of the world's work if the wheat failed — Of the mill and the flour and the bread— Of the field to be soon anew next year that a new crop might be ready for use. And the wheat listened and answered. "This is our missions we

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

診察―毎朝毎夕（但祭日及日曜の他）
院長診察月、木、金午前及木午後六時
林、峯間兩副院長は目下當院に在勤

東京麹町區三番町三十番地（市ケ谷見附內）
電話番町六二番
電話番町五一六番

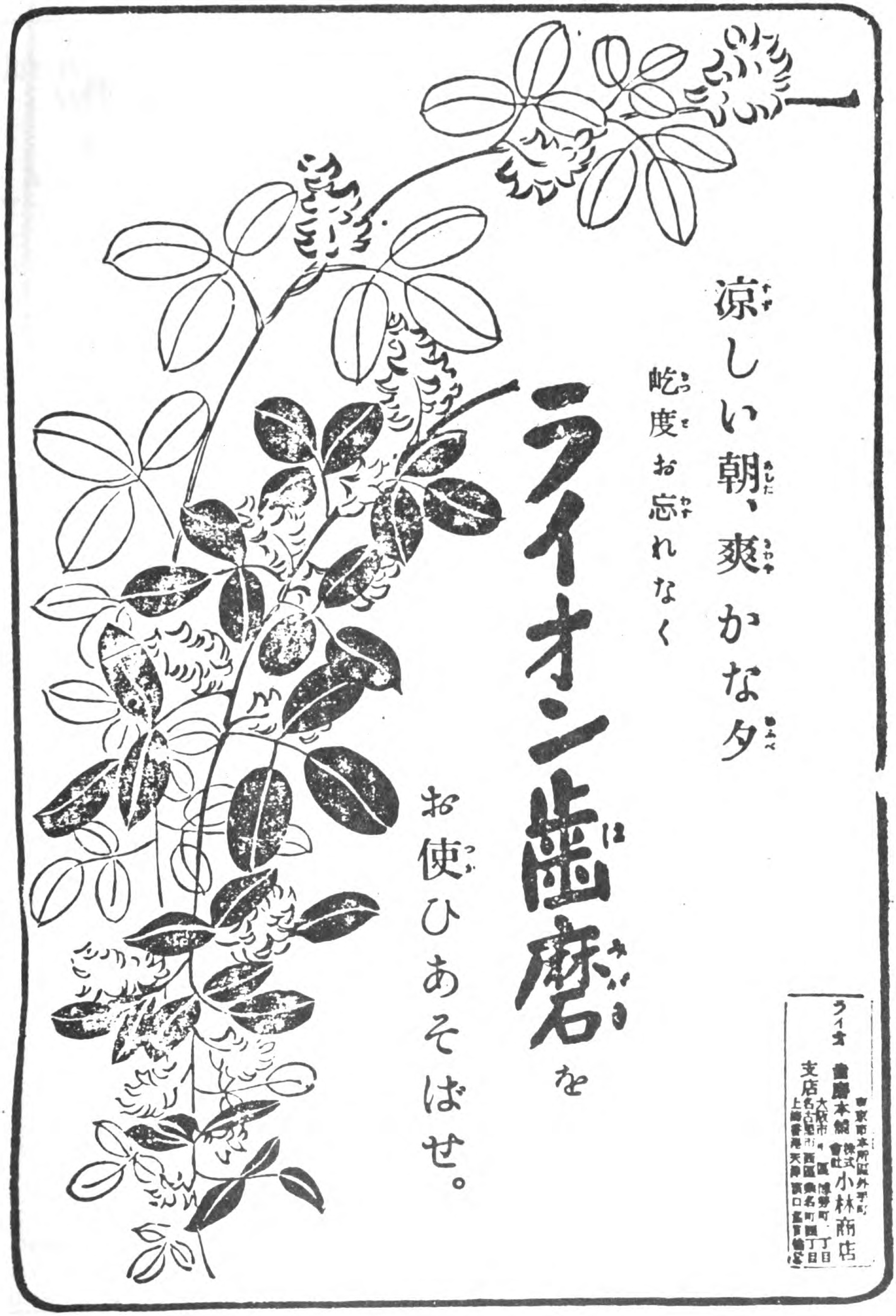
東洋內科醫院

院長 醫學博士 高田畊安

電話ちがさき二番

南湖院

神奈川縣茅ケ崎海濱（從停車場半里）
河野、高橋兩副院長は目下當院に在勤
院長診察土曜日午後入院診後應需
診察每日午後（但祭日及日曜の他）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

婦人新報第三百六十六號（第三種郵便物認可）（毎月一回發行）［本誌一部定價金九錢］